

教団新報

定 価 1 部 140 円 (本 体 133 円 千 共 200 円)
予 約 購 読 料 1 年 分 千 共 5,000 円
紙 代 の み 3,500 円
振 替 00140-9-145275
本 紙 を 購 読 希 望 の 方 は 、 前 金 を
そ へ て 、 お 近 く の キ リ ス ト 教 書 店
へ お 申 し 込 み 下 さ い 。
教 会 の 購 読 料 は 負 担 金 に 含 み ま す 。

発 行 所 日 本 基 督 教 団
169-0051 東 京 都 新 宿 区 西 早 稲 田 2-3-18
日 本 キ リ ス ト 教 会 館 内 電 話 03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発 行 人 長 崎 哲 夫
編 集 主 筆 渡 邊 義 彦
印 刷 所 株 式 会 社 き か ん し

2013 年 度

教 区 総 会 報 告

1

大阪

京都

九州

四国

北海

日本伝道、教区伝道を論点として

教団問安使との活発な質疑



議場からの質問に答える
石橋教団総会議長

大阪教区 5月3日、4日にかけて、大阪女学院ホールチャペルを会場に、第58回大阪教区定期総会が開催された。開会時の正議員数は、議員数292名中193名であった。

准允、按手、聖餐式を含む開会礼拝が行われ、新しく教師が立てられたことの喜びを議長は共有し、本格的な議事がスタートした。法定議案は順調に可決され、その他さまざまな議案が審議されたが、なかでも教団問安使との質疑応答が活発になされた。問安使は石橋秀雄教団議長であったが、議長報告それぞれについて、また、議長報告で触れられていない事柄にも質問が及んだ。

「1962年に憲法擁護声明を出している日本基督教団として、現自民党政権下での憲法改正問題について、どう考えているか」という問いに対し、「憲法96条の改定から、憲法を改正し国民を縛ろうとする動きに

関しては非常に危機感を持っている。そのことへの対応策として現在教団書記が資料を作成し、今後三役で資料に基づいて具体的に検討していくことになっている」と答えた。

「人権が軽んじられた大谷裁判のこれまでの経過についてどのように受け止めているか、また、議長は北村裁判について疑問視するような文章を発表したが、大谷裁判を支援する声明を出した議長として、人権が軽んじられた北村裁判についてどう考えているか」との質問に対しては、「大谷裁判と北村裁判は全く質が違

う。大谷裁判は人権のため闘った牧師の裁判であり、しかも、教会の境内内での逮捕という事例は議長としても認めがたく抗議をした。今後の裁判の経緯を注視し、大谷牧師の勝利を願っている。一方北村裁判は人権問題が問われる裁判ではない。この問題は、教会法における教師職についての問題であり、世俗法ではなく教会法で解決している問題である。教会法の中に世俗法が入り込んでほらない」と応じた。

「沖縄教区との関係回復について、今年の沖縄教区総会において、伝道所からの議員を総会議員として認める」と沖縄教区が決断した場合、その教区総会を認めるのか、それとも認めないのか、また、沖縄教区との関係回復について、重要課題だと記しているが、具体的に何をしてきたか」との問いに対し、「沖縄教区から教団に、伝道所からの議員選出に関する教区規則の変更が出されたが、信仰職制委員会の提言を受け、その変更は認められないと既に結論付けている。また現状に関しては、何もできないのが現状であるが何



大阪

また、東日本大震災被災地、沖縄教区、大谷隆夫牧師、北村慈郎牧師をそれぞれ引き続き支援課題として担っていくとする各議案が可決された。

一方で、教区負担金算定見直しに関する議案、教区のスリム化を検討する議案が否決された。

三役選挙結果
【議長】向井希夫（大阪聖和）、【副議長】小笠原純（高槻日吉台）、【書記】上地武（大正めぐみ）
常置委員選挙結果
【教職】小笠原真（東梅田）、村山盛芳（浪花）、大澤星一（西大和）、岡村恒大阪、平井文則（阿倍野）、栗原宏介（奈良）、一木千鶴子（高石）、久木哲（交野）、田邊田紀夫（茨木）、中西真二（小阪）、清藤淳（和歌山）
【信徒】山崎喜美子（愛隣）、山田淳子（大阪聖和）、東谷誠（いずみ）、鈴木恵美子（馬見労働）、江本義一（茨木東）、安田信夫（高槻）、植原道温（茨木）、寛伸子（茨木東）（小林信人報）

教区改革実質化委員会を設置



京都

京都教区 5月3日、4日と第77回（合同後第47回）京都教区総会を洛陽教会を会場に開催した。

今総会は3つの重要な議案があった。①京都教区宣教基本方策の確定、②教区センターの一般社団法人化を白紙にする件、③教区改革実質化委員会の設置である。これらの議案は一部文言の訂正はあったが承認された。

例年総会において協議会を開催しているが、第1日の夕刻に「憲法改悪の自民党草案」を巡って憲法学者の横田耕一氏を講師に協議会をもった。憲法第96条の憲法改正要項に対して、さらには現憲法を守る立場から教区声明を出すことを確認して退席してもらった。

3・11東日本大震災から2年が経過し、今後も継続的な被災地支援の依頼とこの間の被災地支援活動に対する感謝が高橋和人東北教区総会議長から伝えられた。特に2年を経て被災地での復興は円滑に進んでいるにもかかわらず、30万人を超える被災者が避難を強いられている現実と、社会全体に広がる支援に対する希薄化に対して、警鐘と支援の継続が訴えられた。

今総会の2日目午後には石橋秀雄教団議長が問安のため来会した。教区は事前



准允・按手受領者の挨拶

橋秀雄教団議長が問安のため来会した。教区は事前

に問安を断っていたために、応接室で総会準備委員長と議長で丁寧に応対し、7月9日第2回常置委員会において教団議長との協議の時間を持つことを確認して退席してもらった。

今回は2年に一度の選挙総会でもあった。議長・副議長は再選され、井上勇一、入治彦が2期目に入った。

各地で教区総会が始まった。今年もできる限り多くの教区総会取材を、と新報では取り組んでいる。地域固有の課題を抱える伝道と教会形成について報告、計画が急されるであろう。これらを良く伝えられるよう心がけたい▼昨秋の教団総会を経て教区の意見があるであろう。また国政の交代で地域の課題が変化していることもあろう。震災被災教区では、教会の復興、再建、地域のそれにも進展があるであろう。原発、基地、人権といった諸問題を取り上げざるを得ない教区もある。一方で、伝道の危機が報告され、他方、これまで真剣に伝道に取り組んできた自負が語られる▼社会情勢の変化による種々の課題を論ずるにも、また伝道そのものを論ずるにも、これらが究極的な目標とされてはならないはずである。社会的課題も、伝道も、歴史の流れによって過ぎ去る。究極的目標は、今、隣りにある同胞に救いが伝わることであり、これらの人々の救いである。そして、この救いによって神の栄光が明らかにになり、永遠に思ひ致すことだ▼この世にて、伝道し、教会を建て、社会的課題に真摯に取り組む。そして、この世は過ぎ去る。だが、そうであるからこそ、主から、終わりの日に「善かつ忠なる僕よ」と呼んでいただけるよう、今を懸命に生きなくてはならない。

新議長に梅崎浩二氏

三役一新

九州教区 第63回九州教区総会は、5月1日から3日間、福岡中部教会で正議員235人中、開会時170人が出席して開催された。

深澤獎議長は、13項目、30分余に及ぶ長文の議長報告の中で、「第38回教団総会で九州教区が提案した沖縄関連議案は、審議未了・廃案となり、独裁的運営が目立った。こうした中で、九州教区は、その立ち位置を沖縄側に近づけ、徹底して連帯する道を模索する時に来ている」と強調した。

また、緊縮財政に言及し、「互助教会は、12年度、12教会・伝道所、1818万円だが、今後、互助費は増大するものと思われる」と財政削減に一層の理解を求めた。

議長が重点施策として上げた沖縄教区との連帯では、1日目夕食後、沖縄教区から平良修氏（元合同間

題特設委員長）を講師に招いて議員研修会を行った。他、「沖縄教区との『協働・研修の場』の設置を目指す」議案が可決された。

議長報告の中でも一つ目指した「教団の独裁的状況下における九州教区の態度表明に関する」議案（常置委員会提案）は、「九州教区を何故辺境というのか」「少数派から見れば、教団の運営と同じ状況が九州教区にも存在する」「九州教区は『聞く耳』を持っていない」と議論が並行線をたどる中で、「議案を取り下げ、練り直す」意見がセコンドを得て修正動議となり、採決の結果、投票総数149、賛成111で可決され、議案は常置委員会差し戻しとなった。

三役選挙は、予備選で上位3名選出、所信表明後の本選で議長に梅崎浩二議員（副議長）、副議長に日下部遺志議員が選出され、書記

は正副議長推薦の新堀真之議員を承認して三役が一新された。常置委員選挙（教職・信徒各4）は、4選禁止（本総会3人が該当、

女性枠30%・2人確保目標、倍教候補選出という九州方式で行われた。本総会で、粕屋伝道所西岡巖教師）の開設が承認さ

れ、2年前の総会で、3伝道所の廃止が承認されていただけに、大きな拍手に包まれた。粕屋伝道所は、福岡渡辺教会が74年来開拓

活動が実施されていることが報告された。教育部の報告では、スプリングキャンプにおいて、福島から1名の高校生を迎えたことが報告された。

教団問安使・伊藤瑞男教団副議長挨拶では、石橋秀雄教団議長の挨拶について

冒頭、議長挨拶において黒田道雄議長は、「東日本大震災で被災した教会への思いを強めて行く」と述べ、支援への協力を呼びかけた。また、教区において、教勢の低下が続いていることに触れ「協力伝道を強め共に歩む決意を固くしたい」とした。教区において課題となっている、互助の抜本的見直しについては、「丁寧な協議をするために、検討小委員会を継続して設置する」と述べた。



17 教区中最長の 3 日間の総会、活発な議論が展開された。

互助の抜本的見直し継続

四国教区

4月29日、30日、四国教区総会が今治湯ノ浦ハイッで

行われた。開会時、正議員123名出席。

冒頭、議長挨拶において黒田道雄議長は、「東日本大震災で被災した教会への思いを強めて行く」と述べ、支援への協力を呼びかけた。また、教区において、教勢の低下が続いていることに触れ「協力伝道を強め共に歩む決意を固くしたい」とした。教区において課題となっている、互助の抜本的見直しについては、「丁寧な協議をするために、検討小委員会を継続して設置する」と述べた。

互助検討小委員会の報告においては、開拓伝道を含めた援助の使途拡大と互助基準のことが重要な点として挙げられていることが報告された。

東日本大震災被災支援に関することとして、被災支援小委員会から、ボランティアプロジェクト、エマオへの道・四国」を通して、

活動が実施されていることが報告された。教育部の報告では、スプリングキャンプにおいて、福島から1名の高校生を迎えたことが報告された。

教団問安使・伊藤瑞男教団副議長挨拶では、石橋秀雄教団議長の挨拶について

冒頭、議長挨拶において黒田道雄議長は、「東日本大震災で被災した教会への思いを強めて行く」と述べ、支援への協力を呼びかけた。また、教区において、教勢の低下が続いていることに触れ「協力伝道を強め共に歩む決意を固くしたい」とした。教区において課題となっている、互助の抜本的見直しについては、「丁寧な協議をするために、検討小委員会を継続して設置する」と述べた。



九州

伝道に努めて来たもので、九州教区は、126教会・伝道所（うち伝道所10）となった。

三役選挙結果

【議長】梅崎浩二（大牟田正山町）、【副議長】日下部遺志（川内）、【書記】新堀真之（香椎）

常置委員選挙結果

【教職】西畑望（大分）、原田のぞみ（宮崎清水町）、東島勇気（門司大里、古屋治雄（福岡中部）

【信徒】浅野直人（福岡警固）、伊津見七生子（若松浜ノ町、島田晋（大分東）、松山萌子（武蔵ヶ丘）

（50音順）（永井清陽報）

また、伝道推進室について、地方の現実をつぶさに見て戦略を考え、地方教会と協力しつつ進めて行くべきだと思いが、考えはあるのか」との質問があり、「伝道委員会と相談しつつ進められてはいるはず、意見を出してほしい」と答えた。こ

仰告白、教憲、教規の中に聖書解釈が含まれていると、様々な聖書解釈がある教会の伝統に立ち、聖書に立ち返って議論する作業を教団として行ってほしい」との意見が出された。伊藤副議長は、基本信条、プロテストメントの伝統、教団信

り、久世そらち教区議長は「教区全体について明確に言い切ることではない」と答えた。また常置委員報告に記載された「札幌教会役員会への勧告の実施を求める件」に關し、当該教会の米倉美佐男議員は「論点整理のために教区と話し合っているが、そこに至っていない。常置委員会記録を見せてもらえばわかる」と発言し、久世議長は「当事者からの要求の場合のみ対応する」と述べた。

各議案は4つの分科会に

回付され、その報告を受けて審議された。可決された主な議案は「2012年度教区歳入歳出決算承認に関する件」「教区宣教方針に基づく2013年度活動計画に関する件」「2013年度の少数者の意見を丁寧に扱うべき」教会的信仰の視点を明確にすべき」等の意見が交わされた後、それぞれ可決された。



四国

また、伝道推進室について、地方の現実をつぶさに見て戦略を考え、地方教会と協力しつつ進めて行くべきだと思いが、考えはあるのか」との質問があり、「伝道委員会と相談しつつ進められてはいるはず、意見を出してほしい」と答えた。こ

また、伝道推進室について、地方の現実をつぶさに見て戦略を考え、地方教会と協力しつつ進めて行くべきだと思いが、考えはあるのか」との質問があり、「伝道委員会と相談しつつ進められてはいるはず、意見を出してほしい」と答えた。こ

また、伝道推進室について、地方の現実をつぶさに見て戦略を考え、地方教会と協力しつつ進めて行くべきだと思いが、考えはあるのか」との質問があり、「伝道委員会と相談しつつ進められてはいるはず、意見を出してほしい」と答えた。こ

また、伝道推進室について、地方の現実をつぶさに見て戦略を考え、地方教会と協力しつつ進めて行くべきだと思いが、考えはあるのか」との質問があり、「伝道委員会と相談しつつ進められてはいるはず、意見を出してほしい」と答えた。こ

また、伝道推進室について、地方の現実をつぶさに見て戦略を考え、地方教会と協力しつつ進めて行くべきだと思いが、考えはあるのか」との質問があり、「伝道委員会と相談しつつ進められてはいるはず、意見を出してほしい」と答えた。こ

また、伝道推進室について、地方の現実をつぶさに見て戦略を考え、地方教会と協力しつつ進めて行くべきだと思いが、考えはあるのか」との質問があり、「伝道委員会と相談しつつ進められてはいるはず、意見を出してほしい」と答えた。こ

また、伝道推進室について、地方の現実をつぶさに見て戦略を考え、地方教会と協力しつつ進めて行くべきだと思いが、考えはあるのか」との質問があり、「伝道委員会と相談しつつ進められてはいるはず、意見を出してほしい」と答えた。こ

また、伝道推進室について、地方の現実をつぶさに見て戦略を考え、地方教会と協力しつつ進めて行くべきだと思いが、考えはあるのか」との質問があり、「伝道委員会と相談しつつ進められてはいるはず、意見を出してほしい」と答えた。こ

また、伝道推進室について、地方の現実をつぶさに見て戦略を考え、地方教会と協力しつつ進めて行くべきだと思いが、考えはあるのか」との質問があり、「伝道委員会と相談しつつ進められてはいるはず、意見を出してほしい」と答えた。こ



北海

夫教団総幹事は「教団は戦後新たに合同教会として出発し、公同の教会を目指して信仰告白と教憲教規を定めた」「北海教区の教勢低迷などの宣教課題は教団全体の課題でもある」「社会の様々な困窮の問題の中で、教団はまずキリストに依り頼み助け合う教会の群れでなければならない」と応じた。

東日本大震災被災支援活動について、東北教区の小西望牧師及び北海教区からボランティア派遣した青年2名

よの報告がなされ、東日本大震災支援の重要性について理解を深めた。

三役選挙結果

【議長】久世そらち（札幌北部）、【副議長】笠田弘樹（琴似中央通）、【書記】ト部康之（千歳栄光）

第71回 日本基督教団四国教区 定期総会



一新された三役
左より黒田副議長、芦名議長、寺島書記

【教職】上島一高（今治）、小島誠志（久万）、岡本康夫（日和佐、篠浦千史（さや）、矢野敏太（愛南）、黒田道郎（石井）

【信徒】長島恵子（鴨島兄弟、近藤康夫（新居浜西部）、木俣努（香川豊島）、遊口百合子（西条栄光、竹村徳子（高知、安宅登代子（石井）

【書記】寺島謙（松山城東）

常置委員選挙結果（半数改選）

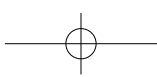
【教職】小西陽祐（余市、石川宣道（室蘭知利別）

【信徒】島田久美子（月寒、板谷良彦（北海道クリスチヤンセンター／札幌北部）

（松本のぞみ報）



臨時正教師による按手



❖伝道推進室主催／幼・保一体化に向けての「子ども子育て新システム」緊急研修会❖

認定こども園運営・教育・保育について講演

4月2日、教団会議室に日本全国から64名の教会幼稚園、保育所、認定子ども園関係者が集まった。年度当初の最も忙しい時期にもかかわらず、これだけの人数が集まったことは、こと

からへの関心の高さを物語っているであろう。

日本における教会幼稚園設はある時期、教会の宣教と財政を支えていたが、近年少子化の影響もあり、多くの幼児施設が困難を抱えている。

また、神学校から送り出される教職は、必ずしも幼児教育や保育、施設運営について学んでいるわけではなく、これらの課題に迫っている。いかに現状もある。

そういうなかでの新システムが動き出そうとしている。否応なく、この問題に直面せざるを得ない。

教団がこの課題に取り組んだのは、昨年7月に続き2回目である。前回は伝道方策検討委員会が常設専門委員会の協力を得ての開催であったが、今回は発足間

もない伝道推進室の主催であることは意義深い。教団が幼児施設を伝道の課題として認識し問題を担おうと

する姿勢の表れでもある。今回の研修会では、鈴木信行氏（教団信徒・聖愛幼稚園理事長と岡村宣氏（矢吹教会牧師・全国認定こども園協会理事）を講師に迎え認定こども園の運営面と教育、保育のあり方の面から、それぞれの経験を交え

▼救援対策本部会議▲

救援対策3拠点、活動を報告

4月1日、教団会議室にて、38総会期教団救援対策本部第4回（通算第21回）会議を開催した。

まず、3月31日現在の国内募金総額が5億3141万3444円、海外からの献金が2億4336万4809円となっていることが報告された。

続いて、教団が設置している各救援対策活動の拠点において活動している方たちからの報告を受けた。

ながら話を伺った。また、講演後、フロアからも活発な意見が出、大いに盛り上がった。

新システムの是非のみならず、昨今の政治状況を踏まえての学校法人化の是非に至るまで豊富な話題があげられ、有意義な時とされた。

当然ながら、何かの結論を出すことが目的ではなく、それぞれの教会や諸施設に戻り、よりよい結論がなされる一助となることを期待して、終わりの時を惜しみつつ閉会された。

（岸憲秀報）

ツフは、傾聴を基本とした「お茶っこサロン」を継続していることのほか、住民や地域の社会福祉協議会などから大きな信頼を得ていることを報告した。

以上の報告の後、それぞれの働きへの感謝と、活動の上にさらなる主の支えを願って共に祈りを合わせた。

その他、救援対策室会議報告、および、石橋秀雄本部長の台湾基督長老教会訪問報告がなされた。

審議事項においては、東北教区放射能問題支援対策室設置に対する支援について協議し、教団としては、東北教区がNCCのJEDRO（エキヌメニカル震災対策室）に対して行った助成金申請を支援することと、教団としてできるだけ

の支援をしていくことを確認した。

また、東北大学実践宗教学寄附講座への支援（1千万円、2年目）を承認したほか、救援対策本部ニュース第8号の発行予定を確認した。

次回会議は、5月17日、教団会議室にて開催する。（雲然俊美報）

▼教区活動連帯金検討委員会▲

「伝道資金規則」により法的位置を明確化

第2回教区活動連帯金検討委員会は、4月16日、教団遺愛会議室において開かれた。

協議は、委員会に課せられた任務と責任について再度確認した上で、本委員会の基本方針を軸に多方面にわたる議論が交わされた。結論から言えば、教区活動連帯金破綻の要因を検証し、基本的に継続審議となっている議案の中身を整備

するための法規上の課題を明確にし、負担金とする「伝道資金規則」の検討に入った。

破壊に至る歴史を避け、1968年、第15回教団総会機構改正に伴う「教団と教区の活動分野改正に関する基本原則」により、活動分野の区分が行われ、同時に平衡交付金が設置された。これは、教区の規模や地域的事情から起る財

政的格差に対して、教区間互助を基底とするものであり、第27回総会における教区活動連帯金設置の源となるものであった。

2009年、教区活動連帯金配分協議会が行き詰まり、27総会の精神に戻るべくとして打開策を内藤留幸総幹事に委ねた時の「27総会の精神」とは何を指すのか。結果的には立場の違い、思惑の違いで、一致の意味

を持たなかった。つまり、当初考えられていたような資金の使われ方ではなく、そのほとんどが謝儀補償に向けられ、機構改正の主旨が生かされてこなかった。同時に、1%の拠出など、決められていた通りのことが守られたことではなく、教規上の不一致、教区間の連帯も崩れ、更に教団教勢の20年に亘る衰退の危機感も薄いまま現在に

至っている。以上の実態認識の上に立つて提案されている議案を「伝道資金規則」として負担金化し、法規的にも明確に位置づけることとした。

新制度規則の概要は、各教区経常収入の0.5%を負担金として賦課し、予決委員会が特別会計に振り分け、伝道委員会が交付申請を受け付け、申請教区への伝道資金として交付するものである。今後、シミュレーションを行い、更に具体化に向けて整備が進められることになっている。

（鈴木功男報）

宣教委員会

宣教総合活動の取り組み

張田 眞

東日本震災により今なお困難の中にある方々のうに主の慰めを祈ります。また、懸命に救援・復興のために努めておられる方に感謝いたします。被災地にある諸教会、また、その宣教の働きのために

当委員会は伝道、教育、社会の常設専門委員会、障がいを考える小委員会、自主活動団体の全国教

委員会コラム

「相談室」設置に向けて取り組むこと。2. 保育・教育のいっその充実を目指して関係諸団体との交流促進。3. 作業が進んでいる「改訂宣教基礎理論」を前提に、「宣教方策」に関する議論を始めること。4. 中長期的な展望です

（宣教委員長）

消息

中村徳枝氏（隠退教師）



12年12月27日逝去、86歳。東京都に生まれる。'67年日本聖書神学校を卒業。同年小石川白山教会に赴任、溝ノ口教会、鈴鹿教会、豊橋東田教会、聖和教会を経て、成東伝道所を'93年まで牧会し、'96年に隠退した。遺族は姉・岡田福子さん。

矢島信一氏（無任所教師）



13年3月25日逝去、80歳。広島県に生まれる。'59年同志社大学大学院を修了。甲南教会に赴任、芦別教会、北海道クリスチャンセンタ

1、北星学園女子中学・高等学校校長・聖書科講師を務め、手稲はこぶね教会、月寒教会を経て、札幌北部教会代務を03年まで務めた。遺族は妻・矢島満子さん。

年金局よりお詫び・訂正

【教団新報】4771号【年金特集】7ページ一覧表特別献金（含）クリスマス献金額「2,267,050」を「2,271,050」に、「1000円献金」運動指定献金者名「石上稔」を「石神稔」にお詫びして訂正いたします。



メリー・ヘッセル女史
(1853 - 1894)



フランシナ・ポーター女史
(1859 - 1939)

宣教師からの声

番外編

北陸初の女学校を創ったメリー・ヘッセルと 最古の幼稚園を設けたフランシナ・ポーター

梅染 信夫 (北陸学院史料室長)

日本の本州中央部、日本海側に位置する富山県、石川県、福井県が北陸地方である。

明治初期、この北陸 3 県のプロテスタント・キリスト教に最も大きな影響を与えたのは米国長老教会 (The Northern Presbyterian Church in the U.S.A.) から派遣されて金沢に来た宣教師のトマス・C・ウィン (Thomas C. Winn) とその妻、婦人宣教師のイライザ・C・ウィン (Eliza C. Winn) である。

❖メリー・ヘッセル❖

トマスは開拓伝道に従事するかたわら、私立男子中学校を開設して教えた。またイライザは孤児院を開いたりしたが、この地方初の女学校の開設を発想した。

この 2 人が長老教会のミッション・ボードに申請して金沢にやって来たのが婦人宣教師のメリー・ヘッセル (Mary K. Hesser、ドイツ語風にこう呼ばれた) である。

メリーは 1853 年、ペンシルベニア州エリー (Erie, Pennsylvania) に生まれた。父母はドイツ系移民のカトリックで、彼女はカトリックの教区学校とフリー・スクール (free school) で学んだ後、ドレス・メーカーンクをしていたが、25 歳のときに、ウエスタン女子セミナー (Western Female Seminary) に入学、82 年に卒業し、校長の勧めによって婦人宣教師となって来日し、金沢に来た。

彼女が創設した金沢女学校は 1885 年 4 月に開校し、最初は先進的な教育を受けさせたいと願う親の子女が 20 数名集まったが、徐々に一般

に知られるようになり、校舎の増改築を余儀なくされるほどに発展した。

しかしメリー・ヘッセルの学校経営は苦難の連続であった。

すなわち、その頃から進められた教育の国家統制の強まり、これによる聖書の使用禁止、また良い教師が得られないこと、さらに一般の人々の無理解ややかみがあった。

しかし彼女はカトリックからプロテスタントに転向した「信仰の人・祈りの人」であった。

彼女は「主を畏れることは知恵の初め」(詩編 111・10) という聖句を学校標語に掲げ、新しい時代に働く女性の育成に力を尽くした。彼女は母校のセミナーから 2 人の後輩を送ってもらい、教育課程を改定したり、校名や制度を改定するなどして教育の充実を図った。

このようにしてメリー・ヘッセルは北陸学院の創立者となり、その基礎を築いたが、その体は激務に耐え得ず、1894 年カリフォルニアで天に召された。41 歳の若さであった。

❖フランシナ・ポーター❖

上記のメリー・ヘッセルの金沢女学校の創設に触発されて、北陸地方初の幼稚園と私立小学校を創設したのがフランシナ・ポーター (Francina C. Porter) である。

フランシナは 1859 年、テネシー州のライスヴィル (Riceville) に生まれ、テネシー州メリーヴィル・カレッジ (Merriville College, Tennessee) で英語学を専攻し、1882 年に卒業して米国長老教会婦人宣教師となり、同じ教会の宣教師として 1 年前に来日し金沢に来ていた兄が校長をしていた学校で英語を教えた。

彼女は最初、幼稚園と小学校を含む「子供の学校」(Children's School) の開設を目指した。

当時、北陸には幼稚園も私立の小学校もなかった。彼女はトマス・ウィンの紹介で東京の桜井女学校にマリア・ツルー (Maria True) を訪ね、協力を頼んだ。ツルーは帰米し、幼児教育の専門家エリザベス・ミリケン (Elizabeth P. Milliken) を見出した。ミリケンは来日し、桜井女学校幼稚保育科の科長となった。

フランシナは名古屋の吉田エツという女性に会い、1 年間幼稚保育科で学ばせ、英和幼稚園の保母主任とし、1886 年に英和幼稚園が発足した。

小学校の方は、金沢教会に小学校の教師がいたことから、彼を中心にして、同じ年に英和小学校が発足した。

当時、日本における幼児教育理論は未成熟であり、適当な教科書がなく、キリスト者の教師が得られず、校舎が増改築を要するなど、困難が重なった。その上、幼稚園、小学校ともに、「キリスト教教育の危機という嵐」の只中におかれていた。

フランシナはその強固な意志と努力によって、全国でも類例の少ない幼児教育という難事業に取り組んだが、国家統制の力の前に、英和小学校は 1903 年廃校の止むなきに至った。

カリフォルニアで病氣療養中であったフランシナはこれを聞いて一晩中泣き明かしたと伝えられる。

英和幼稚園の方はフランシナや彼女の後継者たちの知恵と尽力とによって今日まで存続し、現存するわが国最古のキリスト教幼稚園として先進的幼稚園教育を進めている。

病氣癒えたフランシナ・ポーターは再来日し、京都に新しい幼稚園を開設するなど日本の幼児教育に尽くしたが、1939 年カリフォルニアで天に召された。享年 79 であった。

— Kyodan Newsletter より —

4月2～4日、放射能汚染問題の現状を知るため、福島県内の教会等を見て回りました。

原町教会・原町聖愛保育園(南相馬市)では、教団が購入を支援した食品放射能測定器の利用状況を確認しました。空間放射線量の問題もさることながら、人が直接体内に摂り入れる食品(特に自家栽培や露地栽培の野菜など)の放射線量の不安が大きいく、建物や土壌を除染しても、また違った場所の数値が高くなってしまうというなど、「除染」ではなく「移転」になっている現状等を知られました。

また、会津放射能情報センター(会津若松市)では、原発事故のために避難して来ている方たちの生活の問題、家庭内や近所付き合、また学校などの地域社会で、

祈りの家を建て させてください

放射能汚染問題の受けとめ方の違いで、人と人との関わりにおいてきわめて複雑な思いが交錯している現状なども知らされました。放射能汚染の問題は「どれだけの健康被害があったのか?」というこ

(教団総会書記 雲然俊美)

豊川さんは若い頃、クリスチャンの母親に勧められても、またキリスト教大学に入学してき、キリスト教に興味をもてなかった。しかしクリスチャンの女性、朋子さんとの出会いが転機となった。彼女の気を引く気持ちもあって越谷教会の礼拝に出席するようになり、その後めでたく二人は結婚した。

教会に通い出した当初は聖書の御言葉が全く理解できなかったが、石橋秀雄牧師による聖書の学びを通し、1987年ペンテコステに洗礼に導かれた。私たちの人生は神によって創られ、どんな時もキリストが共にいてくださる。苦しみや悲しみの中にあってもそれで終わらない神が保証してくださる人生を知ったという。

同時に、教会に招いてくださったのは神で自身であると気づかされ、伝道の大切さを知らされた。「私たちの出来る伝道とは、まず礼拝に出て喜びに満たされた生活をおくること。その姿こそ、人々を教会へ向かわせる動機になるのではないか。神さまに繋がっている喜びを一人でも多くの方に伝えられることを切に願っている」と語る。

そのことが豊川さんの奉仕の姿勢に現れている。教会では伝道委員長やインターネット委員会の委員長を務め、また埼玉地区では「地区月報」編集を担当し、その発送は朋子さんが奉仕して

いる。この『地区月報』企画を提案したのは豊川さん自身である。さらに地区ホームページも開設し、「血が通う地区」を願っている。実際、地区ホームページの教会紹介を通して、ある青年が受洗に導かれた時は大きな喜びであったと語る。

以前のIT企業勤務の経験により、人々に様々な情報を伝える働きが、奇しくも今は、教会に繋がる喜びを伝える働きとして主に用いられている。

豊川さんは「神さまがすべての人を神の国へ招くため、この小さき者を教会へ招き、用いてくださっていることを痛切に感じる」と語る。



豊川 昭夫さん

伝道の喜び



妻・朋子さんと共に。
東京生まれ、越谷教会員、埼玉地区委員。